

世界はキッシンジャーの死去に際して何を語ったか

小林弘幸



写真：ロイター/アフロ

私がキッシンジャーの死去を知ったのはNHKのニュース記事だったが、「キッシンジャー米元国務長官 死去 米中の国交樹立に寄与」という簡潔なその見出しに、何とも言えない戸惑いを覚えずにはいられなかった¹。もちろん、米中国交正常化がキッシンジャーの大きな功績の一つであることは疑いない。それでも、この見出しからこぼれ落ちるキッシンジャーの膨大な「功」と「罪」の山を思うと、その見出しはあまりにも簡潔過ぎるように思えて仕方がなかった。

キッシンジャーほど「功罪相半ばする」、「毀誉褒貶の激しい」といった言葉が似合う人間は居ないだろう。彼の死に際して世界中で発せられた追悼の言葉達も、彼への評価の「幅の広さ」そのままに、多岐に渡った²。

1 「キッシンジャー米元国務長官 死去 米中の国交樹立に寄与」NHKニュース、2023年11月30日。〈<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231130/k10014273071000.html>〉(2024年1月28日最終アクセス。以下全て同様。)
2 早い段階で海外のキッシンジャーへの追悼文、追悼記事をまとめたものとして、『「死んだ人を悪く言うもんじゃないと母から言われた」キッシンジャー逝くForesight World Watcher's 11 Tips』新潮社Foresight、2023年12月2日。〈<https://www.fsight.jp/articles/-/50244>〉日本語による主な追悼文、追悼記事としては、「キッシンジャー氏は「米外交の設計者」だった佐橋亮・東大准教授」毎日新聞、2023年11月30日。〈<https://mainichi.jp/articles/20231130/k00/00m/030/329000c>〉、三牧聖子「キッシンジャーの現実主義外交から継承すべきもの」『中央公論』2024年2月号など。

意外に思われるかもしれないが、そのなかでも最も私の印象に残ったのは、日本の岸田文雄首相による弔辞だった³。外務省や首相官邸のHPに掲載されたその弔辞は、ナンシー・キッシンジャー夫人に宛てられたもので、簡潔だが、いかにも岸田らしいものだった。とりわけ私の目を引いたのは、「核兵器のない世界」に向けた元長官のビジョンは、日本及び世界で高く尊敬されてきました」という一節である。晩年のキッシンジャーは積極的に「核兵器なき世界」への提言を行っていたが⁴、短い弔辞のなかでこれに触れたのは、核軍縮をライフワークとする岸田らしい。

キッシンジャーへの追悼文、弔辞の多様性を見ていると、これらは単なる追悼のための文章ではないのではないかとも思えてくる。「キッシンジャーへの追悼」という形を借りて、人々は自らの価値観、大切にすもの、政治的立場といったものを表明したがっているようにも見える。岸田にとって、「核兵器のない世界」は、やはり大切なものなのだろう。バイデン米大統領はキッシンジャーの叡智を称えつつ、「我々のキャリアを通じて、我々はしばしば意見を異にした。それは時に激しいものだった」と言及することを忘れなかった⁵。バイデンが自らの政治的アイデンティティをどこに置きたがっているのか、見える気がする。中国の人々はキッシンジャーを「最も大切な古き友人」と呼んでその死を悼み、台湾の人々は、「歴史的に見れば、彼は好ましくない人物だ」と言わざるを得なかった⁶。ここにおいてキッシンジャーはまるで人々の思いを注ぎ込まれる「器」のようだが、このようなことが起きるのも、キッシンジャーという人物の巨大さ故なのだろう。

人物に対する歴史的評価は往々にして、時とともに変遷する。いま賞賛されている人物が100年後も賞賛されているとは限らない。逆もまた然りである。時代が変わり、価値観が移ろい、研究が進むにつれ、キッシンジャーへの評価も揺れ動いていくだろう。キッシンジャーについては、2015年、歴史家のニール・ファーガソンによる大部の評伝が出版されている⁷。キッシンジャー本人の協力も得て著されたこの評伝は、今後キッシンジャーを語る際に参照され続けられるであろうが、これがキッシンジャーへの評価を確定させたとは言い難い。何よりこの評伝は1968年までしか扱っていないし（68年以降を扱う続編が予定されている）、ファーガソン本人も書いているように、「どんな評伝作家も、すべてをあきらかにすることはできない」⁸。まだまだ我々の知らないキッシンジャーが居て、新たなキッシンジャーが発見されていくはずだ。今回も、毒素（toxin）を用いた兵器の開発をキッシンジャーが止めたという、世間で広く知られているとは言い難いエピソードを追悼の一環として紹介した記事もあった⁹。

数多く出された追悼文のなかでも最も話題を集めたものの1つが、ジョセフ・ナイによるものだろう¹⁰。国際関係

3 「キッシンジャー元米国務長官の逝去に関する岸田総理大臣の弔辞」首相官邸、2023年12月1日。〈https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/discourse/20231201_message_c.html〉

4 George P. Shultz, William J. Perry, Henry A. Kissinger and Sam Nunn, "A World Free of Nuclear Weapons" 4 January, 2007, *The Wall Street Journal*. 〈<https://www.wsj.com/articles/SB116787515251566636>〉 ; "Toward a Nuclear Free World" 15 January, 2008, *The Wall Street Journal*. 〈<https://www.wsj.com/articles/SB120036422673589947>〉

5 "Statement from President Biden on the Passing of Henry Kissinger," The White House, November 30, 2023. 〈<https://www.whitehouse.gov/briefing-room/statements-releases/2023/11/30/statement-from-president-biden-on-the-passing-of-henry-kissinger/>〉

6 "Henry Kissinger: China mourns 'a most valued old friend'," BBC, 30 November 2023. 〈<https://www.bbc.com/news/world-asia-china-67563597>〉

7 Niall Ferguson, *Kissinger: 1923-1968: The Idealist* (New York: Penguin Books, 2015). [ニール・ファーガソン／村井章子訳「キッシンジャー 1923-1968 理想主義者1・2」(日経BP社、2019年)] ファーガソンによる追悼文は、Niall Ferguson, "Henry Kissinger Was a Complex Man for a Complex Century," Bloomberg, November 30 2023. 〈<https://www.bloomberg.com/opinion/articles/2023-11-30/henry-kissinger-was-a-complex-man-for-a-complex-century>〉

8 ファーガソン「キッシンジャー1」、12頁。

9 Matt Field, "Henry Kissinger supported wars and coups. He also played a little-known role in eliminating bioweapons," *Bulletin of the Atomic Scientists*, December 1, 2023. 〈<https://thebulletin.org/2023/12/henry-kissinger-supported-wars-and-coups-he-also-played-a-little-known-role-in-eliminating-bioweapons/>〉

10 Joseph S. Nye, Jr., "Judging Henry Kissinger: Did the Ends Justify the Means?" *Foreign Affairs*, November 30, 2023. 〈<https://www.foreignaffairs.com/united-states/henry-kissinger-obituary-judging-ends-means>〉

論の分野では「リアリスト（現実主義者）」の代表格とされるキッシンジャーと、「リベラリズム（複合的相互依存論）」の人とされるナイ。思想的には大きく隔たっているように見える両者だが、どちらも学者でありながら外交実務に携わり、戦後アメリカの外交政策に大きな影響を与えたという共通の経験を持つ。何より、2人はハーバードでの同僚であった。

かつての同僚に向けたナイの追悼文は、政策実務家としてのキッシンジャーの「モラル」を主に目的（ends）、手段（means）、結果（consequences）のそれぞれの観点から評価するという内容のものだが、実はこれはナイが自身の著作で戦後の歴代アメリカ大統領の政策の「モラル」を評価する際に使ったのと全く同じ手法である¹¹。ナイは敢えて、この手法で追悼文を書くことを選んだのだろう。「結果の面で言えば、世界は彼の政治的手腕によって、より良い場所になった。そして彼の成功は彼の失敗を上回っている」というナイの結論については賛否あるだろうが¹²、感傷的になり過ぎず抑制的で、冷たいとすら感じるほど「学術的」、「客観的」なこの追悼文が、他のどんな追悼文よりも「考える人」であったキッシンジャーという人物の追悼に相応しく感じる。キッシンジャーをこうして「平熱」で評価していくべきだと、ナイは教えてくれているのかもしれない。

11 Joseph S. Nye, Jr., *Do Morals Matter?: Presidents and Foreign Policy from FDR to Trump* (Oxford: Oxford University Press, 2020) . [ジョセフ・S・ナイ／駒村圭吾監修／山中朝晶訳『国家にモラルはあるのか？—戦後アメリカ大統領の外交政策を採点する』（早川書房、2021年）]

12 Nye, "Judging Henry Kissinger" .